

次の文章を読んで、後の問題に答えなさい。

「ベートーヴェンを知っていますか」とたずねられたら、あなたはどうか答えますか。

- ・名前は聞いたことがあるが、何をした人かわからない。
- ・作曲家ということは知っている。
- ・作曲家だということを知らずに、音楽室の肖像画で顔もなんとなく知っている。
- ・名前と顔を知っているし、彼の作曲した曲を少し聴いたことがある。
- ・曲を聴いたことが少しあり、交響曲第五番「運命」の冒頭ジャジャジャーンは知っている。
- ・交響曲第五番・第九番などをじっくり聴いたことがある。
- ・図書館で彼のマンガ伝記を読んだので、代表曲や人生について知っている。
- ・彼のピアノ曲「エリーゼのために」を弾いたことがある。
- ・彼のピアノ曲「ピアノソナタ第一番・第五番」などの初期の作品は弾いたことがある。
- ・彼のピアノ曲「ピアノソナタ第八番「悲愴」^{ひそう}・十四番「月光」・十七番「テンペスト」などを弾いたことがある。
- ・彼は近所に住んでいて、顔を合わせるとお互いにあいさつをする知り合いである。

こんな例を書いてみましたが、あなたはどれに当てはまるか、または近い感じでしょうか。こうしてみると単に知っているということだけでも、いろんなアがあることがわかります。「ベートーヴェンを知っている」という単なる表面上の文章だけでは、どの程度知っているのかはわかりません。

「知っている」は、話している人同士の会話の前後の文脈にもよりますし、話し手の年齢や教養の程度など、どのようなレヴェルの会話をしているのかにもよります。また時には話している人同士の関係性も関わってくるでしょう。

イ ピアノ歴が十年以上のそこそこ弾ける高校生の生徒に、先生が「ベートーヴェンは知っているの」と聞いたなら、それは生徒からどのような返答を予想しているのでしょうか。生徒がたとえばベートーヴェンの有名曲を弾いたことがなくても、おそらく「はい、悲愴や月光は聴いてはいますが弾いたことは 아닙니다。これまでにやったソナタは五番、七番、十一番などです。あとはバガテルを何曲かくらいです」というような返答を想定しているでしょう。

もしここで高校生の生徒が「あ、知ってるかも。なんか音楽室の絵で見たことあって、髪がボサボサの人だよな」などと言ったら、先生は卒倒^{そつどう}してしまうでしょう。そんな返答はせいぜい小学生の低学年程度でしょうから。

このように、「知っている」には段階もあるし、年齢や話題についての教養度などのさまざまな要素や話している人同士の関係性によっても変わってくるものなのです。

ですから、誰かが何かについて「知っている」と言っても、言葉の表面上のこのみで判断しないように気をつけたいものです。もしかしたら「知っている」という十段階の一や二といった初歩のレベルかもしれないのですから。

(編井 一樹「いびつな真珠を上手く弾く」より)

問一 次の選択肢のうち、本文と合っているものはどれか。

- 1 ベートーヴェンのピアノ曲を弾いたことがないのに、知っているという人が多い。
- 2 ベートーヴェンのピアノ曲には、たとえば「悲愴」や「月光」がある。
- 3 ベートーヴェンのマンガ伝記には、彼の作曲や人生についての真実が書かれている。
- 4 ベートーヴェンの「運命」は有名だが、この曲のタイトルは彼がつけたものではない。

問二 本文で筆者の主張を次の選択肢から選べ。

- 1 物事を「知っている」ということには段階もあるし、いろいろな要因によって変わってくるものなので、その言葉だけでは判断はできないものである。
- 2 ネット動画やスマホの普及により、動画やネット情報を少し見ただけで「知っている」と言う人が増えているので、そうした人には気をつけた方がいい。
- 3 ベートーヴェンの肖像画しょうぞうを見たことがある程度では、彼を作曲家として「知っている」とは言えないので、ちゃんとピアノ曲を十曲以上弾いてから言った方がいい。
- 4 ピアノ歴が十年以上の高校生ならベートーヴェンを本当に「知っている」と言える段階だが、小学生低学年は「知っている」という段階ではない。

問三 空欄「ア」と「イ」に入る言葉を選べ。

ア

- (1) 音楽
- (2) 人生
- (3) 顔
- (4) 段階

イ

- (1) だから
- (2) つまり
- (3) たとえば
- (4) そして